

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE SUMMER EDITION

北星学園大学

北星学園大学短期大学部



02-03

[特集]

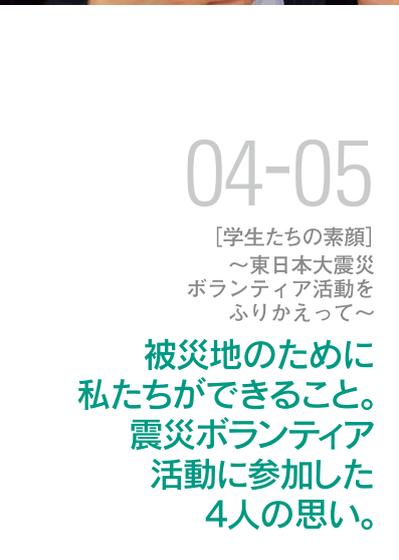
NHKアナウンサー 登坂淳一さん インタビュー



02-03

自然体で生きる 日々を積み重ね、 少しずつ前に 進んでいく。

NHKアナウンサー
登坂淳一さん



04-05

[学生たちの素顔]
～東日本大震災
ボランティア活動を
ふりかえって～

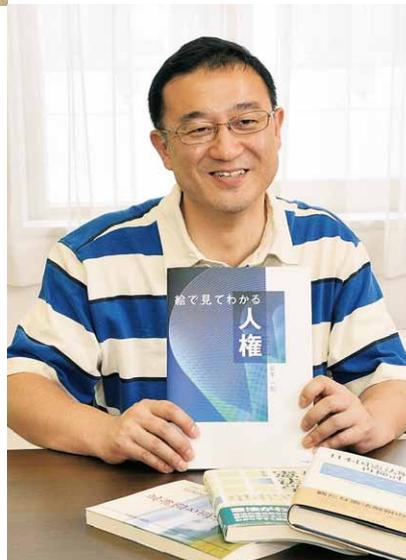
被災地のために 私たちができること。 震災ボランティア 活動に参加した 4人の思い。



06

[先生たちのその素顔]
経済学部 岩本一郎先生

憲法を私たちの 生活に活かすために、 憲法について考え 語りつづける。



07

[OB&OG インタビュー]
[卒業生は、いま。]

タレント
今野 美里さん

“商店街アイドル” をめざして奮闘中!



08

[HOKUSEI INFORMATION]
北星学園大学からのお知らせ

高校生のためのキャンパス情報誌 学生たちの素顔満載 キャンパスライフ情報誌 「star box」発刊!

- ★NHKの国際情報番組「J-MELO」収録・放送
- ★大学公開講座
- ★北星オープンユニバーシティ



[特集] INTERVIEW

NHKアナウンサー 登坂淳一さんインタビュー

自然体で生きる日々を積み重ね、 少しずつ前に進んでいく。

NHK全国ニュースの顔から北海道の顔となって1年あまり。「ネットワークニュース北海道」のキャスターとしてもおなじみの人気アナウンサー・登坂淳一さんに、同じくNHK札幌放送局の音楽情報番組「インフォ・エッジ H」にリポーター(H-Girls)として出演中の本学の学生ふたりが迫ります。

北海道の自然とスポーツに夢中!

山田:来道されて1年あまりたちましたが、北海道の暮らしはいかがですか?

登坂:東京や関西での生活が長かったので、最初は気候の違いに驚きました。夏でもあまり暑くならないのが物足りなく感じるほど(笑)。でも湿度が低く空気がサラッとしているので快適ですね。

堀井:登坂さんにとって北海道の魅力はなんですか?

登坂:土地も人も雄大で大らかなところですね。開放感があって、気持ちもオープンになります。そしてなんといっても豊かな自然。札幌の街中にいても大倉山や藻岩山など身近に自然が感じられるのは素晴らしいですね。初めて釧路湿原を見たときも感動しました。北海道に来たことで、改めて自然が好きになった気がします。

山田:北海道に来てカーリングを始められたそうですね?



登坂:そうですね。「ネットワークニュース北海道」で初挑戦してからすっかりハマってしまいました(笑)。カーリングは年齢を問わず誰でも楽しめる一方、体も頭も使うので意外と難しいんです。そこが面白い。知らなかったことを知ったり、できなかったことができるようになるのはうれしいもの。北海道に来てから、そんな喜びを日々積み重ねています。

逆境で自分を磨いた新人アナ時代。

山田:アナウンサーを志したきっかけは何ですか?

登坂:もともとアナウンサーにこだわっていたわけではないのですが、大学3年ごろ就職活動にあたり、自分が今まで取り組んできたことや感じたことなどを振り返っていると、父との思い出がよみがえってきました。小学生のとき、父は多忙で帰りが遅く、朝の食事の時に交わす会話が大切なコミュニケーションでした。スポーツ好きだった父は、前日のプロ野球の一番良かった場面の実況を再現すると、とても喜んで聞いてくれました。そんなことを思い出し、相手に話して伝えること＝アナウンサーに興味を持ちました。

堀井:これまでの仕事を振り返って、印象的なエピソードはありますか?

登坂:最初に赴任したのはNHK和歌山放送局でした。当時、関西エリアは大阪放送局がキーステーションになっており、テレビでニュースを伝えることはなかったんです。アナウンサーの仕事は何だろうと、悩んだこともありましたが、今ここでできることはと考え、自分で取材、提案した中継リポートを放送していました。そうすることで、現場の感覚や実際の現場を知ることの大切さを学び、社会における放送の役割を考える視点が養われたように思います。結果的にはそんな環境が自分を磨く契機となり、感謝しています。

山田:アナウンサーとして心がけていることはありますか?





↑今年5月「INFO H」に登坂さんがゲストで登場。ニュースとは違うリラックスした表情を見せてくれました。



PROFILE

とさか じゅんいち
登坂 淳一

東京都出身。NHK入局後、和歌山放送局、大阪放送局、東京アナウンス室を経て、2010年3月に札幌放送局へ。現在「ネットワークニュース北海道」のメインキャスターを専門垂衣子アナウンサーとともに務めている。

「ネットワークニュース北海道」

NHK総合 平日午後6:10~7:00
登坂さんがメインキャスターを務める北海道向けのニュース番組。道内7局のネットワークを駆使して、生中継も交えながら道内のその日のニュースや生活情報を伝えます。

<http://www.nhk.or.jp/sapporo/>



「INFO H」

NHK総合 毎週金曜日10:24~
タレント・木村愛里と女子大生MCグループ「H-Girls」が、旬のアーティストへのインタビューや札幌ライブ情報などを女の子ならではの感性でお伝えする音楽情報番組。



経済学部
経済学科 3年
堀井 友梨香

学生時代のことや仕事に対する考え方など、内面に迫るお話を聞くことができました。これからの人生にも活かせるヒントがありそうです。



文学部
心理・応用コミュニケーション学科4年
山田 悠理

番組でお目にかかるイメージそのままの飾らない人柄で、密度の濃いインタビューができました。「自然体」と何度も口にされていたのが印象的でした。

登坂: あれこれ下調べをしたり言葉を選んで話しても、相手の思わぬ反応に、自分が思ったように伝わらなかったと感じることもありました。知識でもテクニックでもなく、言葉をなぞるだけでもない、相手の心に訴えかける強い思い——“パッション(passion)”だと思いました。それ自体を言葉にするわけではないけれど、「伝えたい」という強い思いを常に抱いて、みなさんの心に響く情報を発信したいと思っています。

堀井: 東日本大震災の際には震災報道応援要員として全国ニュースも担当されていましたが、つねに冷静沈着にニュースを伝える登坂さんの姿は、震災後の不安と混乱が続く中で安心感を与えてくれたように感じます。



登坂: 日に日に被害が拡大していく中、日本のみなさんがいまほんとうに必要なとしている情報を届けたいという一心で報道にあたっていました。精いっぱいやったつもりでもどこまでお役に立てているだろうか、と自問を繰り返していましたが、そう言っていただけると励みになります。

一日一日が未来の糧になる。

堀井: 学生時代について教えてください。

登坂: とくに熱中したこともなく、ごく平凡な学生生活でした。私は「日は好日」という言葉が好きなのですが、一日一日が好日、良い日にしたいなと思って過ごしています。その時々の積み重ねが今の自分につながっていると思います。

社会に出てからは、改めてその大切さを実感しています。働くことはすべてが理想どおりではなく、思惑と異なる状況も少なくない。でもそれを否定したり逃げたりすることなく、ありのままに受けとめる。その中で揺らいだり立ち止まったりしてもいいから、一日一日を自然体で生きる。そんな日々を積み重ねていくうちに、少しずつでも必ず前に進んでいるものです。学生のみなさんも一日一日を大切に生きて、その日々を糧に未来を創ってほしいですね。

山田: 最後に、北海道のみなさんへメッセージをお願いします。

登坂: NHK北海道は、みなさんを元気にする多彩な番組を放送しています。NHKの番組を観ながら「今日も良い日だった」と思っていたらいいよう頑張ります。

山田・堀井: 本日はありがとうございました。



学生たちの素顔 Our students: A closer look

～東日本大震災ボランティア活動をふりかえって～

被災地のために 私たちができること。 震災ボランティア活動 に参加した4人の思い。

東日本大震災の発生から約5か月。今なおたくさんの被災者が避難所生活を続ける一方、国内外からの支援の輪も広がっています。本学でも複数の学生グループが被災地に赴き、ボランティア活動に従事しました。その中の4人の学生が集まり、それぞれが見た被災地の現実と自らの思いについて語りあいました。



スミス・ミッションセンター主催によるボランティアに参加した学生がお好み焼きと焼きそばの炊き出しを行いました。



阪井ゼミの学生によるボランティア。鉄製のタコに色付け作業から完成品の販売までお手伝いしました。

【東日本大震災炊き出しボランティア】 4月14日～19日

風月(株)と(株)札幌副都心開発公社の後援により、北星学園大学スミス・ミッションセンターが被災地でのお好み焼き・焼きそばの炊き出しを実施。学生17名が参加し、岩手県釜石市の避難所でボランティア活動に従事しました。

【阪井ゼミによるボランティアと聞き取り活動】 5月27日～6月1日

文学部心理・応用コミュニケーション学科・阪井宏教授のゼミに所属する学生14名が宮城県南三陸町を訪問。復興に向けたグッズ製作のお手伝いと製作工房周辺の整備を行うとともに、住民の方々の聞き取り調査を実施。多くの被災体験を伺いました。



社会福祉学部 福祉心理学科3年
やまうち りょうへい
山内 涼平さん



文学部
心理・応用コミュニケーション学科3年
ぜんま あゆみさん
銭座 あゆみさん



文学部
心理・応用コミュニケーション学科3年
しろうない さき
庄内 沙希さん

被災地で見た現実と、人々の思い。

山内: ぼくと神成さんはスミス・ミッションセンターのボランティア学生募集を見てお好み焼きの炊き出しボランティアに参加したのですが、庄内さんと銭座さんはゼミの一環として被災地を訪問したんですね。

庄内: 私はマスコミ志望なので震災報道に関心を持っていたのですが、ひとりでボランティア活動に参加する自信はありませんでした。でも阪井先生の話聞き、被災地の現実や人々の思いを広く伝えて支援の輪を広げることもボランティア活動の一端となるのでは、と思い参加しました。

銭座: 事前に私たちを受け入れてくださる南三陸町の公民館館長からご希望を伺い、同町名産のタコをデザインした復興グッズ「オクトバス君」の色付け作業をしました。また、ゼミ独自のアイデアによって、北海道で用意した花の苗1000ポットを製作工房周辺などに植えたりしました。



庄内: オクトバス君は「置く」とバス」にかけた合格祈願グッズで、すべて手作業で色を塗るお手伝いをしました。翌日は地域の復興を誓って地元の中学校グラウンドで開催された「復興市」で販売のお手伝い。最初はなかなか売れなくて大変でした。

銭座: 高台にある「復興市」会場はとても賑わって活気があるのに、下を見るとがれきの山で……あまりのギャップに、時おり「これは現実なんだろうか?」と思うことも。

庄内: 私たちが訪問した釜石市も被害が大きかったのですが、被災者のみなさんはつねに笑顔なんです。炊き出しを逆に手伝ってくれたり、とてもフレンドリーに接してくださいました。私は被災地の惨状を見たショックと「被災された方が可哀想」という気持ちが表情に表れたらしく、被災者の方に「笑顔でいてね、私たちが元気をもらえるから」と言われ、それから気持ちを切り替えました。

庄内: みなさん驚くほど前向きですよ。「がんばってね」と言われるのは辛いけど「がんばってるね」と言われると励みになる」と。公民館館長と一緒に、南三陸町出身で本学経済学部1年の山内くんのご両親が出迎えてくださり、「息子の通う大学に恩返しをしたいから何でも聞いて」と親身に対応してくださって……かえって元気をもらいました。



宮城県気仙沼市

銭座: たくさんの方から壮絶な震災体験を聞きましたが、「失ったものは多いけど、人との絆を得ることができた。それが乗り越える力になる」という言葉が印象的でした。

山内: 被災者の方々の心の強さを感じる一方、ボランティア活動の限界を感じる場面も。炊き出しに並んでいた人で、釜石市よりも被害が大きい地域から来た方から「支援が届かず困っている」というお話を聞きました。ほんとうに支援を必要としている地域があるのに、交通事情などの理由で支援が届かないことに、もどかしさを感じました。

ボランティアを通じて考えたこと。

銭座: 被災地を自分の目で見ないと知ることができなかったこともあるし、自分の中で変化したものもありましたよね。

庄内: お世話になった先生にお礼を言えないまま、先生が津波で亡くなったという高校生に会いました。「生きていうちに言葉にしなないとダメなんだよ」と言われて、大切な家族や友人が生きてそばにいることの幸せを改めて感じると同時に、今までの自分が無為に生きていた気がしました。また、自分が見た事実と報道とのギャップを目の当たりにし、メディアのあり方について考えさせられることも少なくありませんでした。マスコミを志望する者として今回の体験を活かし、被災者のほんとうの思いやテレビでは伝えられない被災地の現実を伝えたいですね。



銭座: 家族や住む家をなくしても「前を向くしかないから」と笑う被災者の姿に、今までの自分の弱さを痛感しました。生きていれば人と出会い、絆が生まれ、支えあえる。それを幸せだと感じられる気持ちを大切にしたいと思います。

山内: ぼくは「炊き出しでみんなを笑顔に」を目標に炊き出しに臨んだものの、じつは被災者の心の傷にふれるのが怖かったです。でもみなさん自ら被災体験を話してくれて、辛い体験を乗り越えようと一生懸命生きているのが伝わってきました。その姿を見て「自分は今まで一生懸命生きていたか?」と自問するとともに、たくさんの人に支えられて生きてきた自分を実感しました。気づきの機会を与えてくださった被災者のみなさんに感謝です。

☒☒: ボランティアから帰ると、日常の風景があまりにも平和で違和感を覚えました。普通に生活できる幸せを、被災地で学んだ気がします。ボランティア仲間も視野が広くて考え方がしっかりしている人ばかりで、とても励みになりました。今回の座談会でも一人ひとり異なる視点からの体験を聞いて、自分自身を振り返ることができ、改めてボランティアに参加してよかったと思いました。



引率した先生からのメッセージ

自らの限界を知り、
人と人の絆を
気づききっかけに。



スミス・ミッションセンター
チャブレン
くさ じま たか
草島 豊先生

どの学生も実際に行って・見て・聞いて、報道からは伝わらないものを感じ取ったようです。また「与えるつもりで行ったのに、逆に与えられてばかりだった」という感想もありました。与えるという視点では見失いがちな人と人とのつながりに気づくことは大切なことです。限界のある小さな私も相手と共に神から愛されているかけがえのない存在だと気づくことによって、人と人とを紡ぐ絆が、心と心を結び光が生まれます。学生には今回の体験を糧として、大学で得た教養を自分の益のためだけでなく、共生の社会のために活かしてほしい。自らの限界を自覚しながら人の痛みや苦しみに寄り添い、支え合って互いの存在を喜ぶ生き方に結実させてほしいと願っています。

◆
本学学生の
意識の高さを
改めて実感しました。



経済学部 経営情報学科 教授
すず き かつ のり
鈴木 克典先生

「大学生の企画を支援する形で被災地に炊き出しに行きませんか」という風月(株)のご提案を、(株)札幌副都心開発公社からいただき、今回のボランティアが実現しました。現地では「プロの業者ではなく学生の炊き出しがうれしかった」と言っていたいたり、風月(株)の二神社長から「自ら仕事を見つけて積極的に動く学生ばかりで感心した」とお褒めの言葉もいただきました。今回、学生自身の企画で活動したことにより学生たちは目に見えて成長したと思いますし、本学の学生の意識の高さを改めて実感することができました。今後も様々な形で、学生たちのボランティア精神を応援していきたいと思っています。

被災地の苦しみに
共鳴する感性を
育ててほしい。



文学部
心理・応用コミュニケーション学科 教授
さかい ひろし
阪井 宏先生

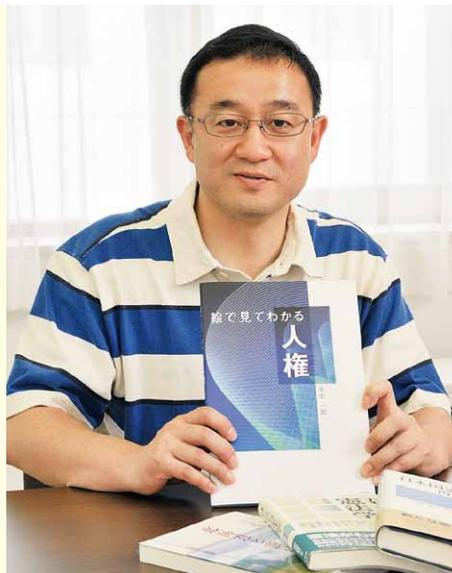
この春スタートした私のゼミでは「現場から学ぶため、まず被災地へ」の宣言のもと、学生14人が初代ゼミ生となりました。このため、ボランティア活動だけでなく、ゼミの学習も目標に据えて計画を練りました。今回の体験をまだ自分の中で消化しきれない学生も少なくありませんが、被災地の惨状を見て、生々しい証言にふれた体験は、学生にとって間違いなく重い財産になります。今回の体験をきっかけに、想像する力・共鳴する感性を育ててほしいというのが私の願いです。ゼミでは復興グッズの販売支援などを模索しながら、今後も被災地とつながり続けたいと考えています。

Featured Faculty Member

先生たちのその素顔

●経済学部 岩本一郎先生●

憲法を私たちの生活に
活かすために、憲法について
考え語りつづける。



憲法と人権についてわかりやすく伝えたいという
思いから「絵で見てわかる人権」を上梓。

PROFILE

いわもと いちろう
岩本一郎

- 1965年生まれ
- 1984年 北海道倶知安高等学校卒業
- 1988年 北海道大学法学部卒業
- 1990年 北海道大学大学院法学研究科修士課程修了
- 1995年 北海道大学大学院法学研究科博士課程修了
北海道大学法学部助手
- 1996年 北星学園大学経済学部専任講師
- 1999年 北星学園大学経済学部助教授
- 2005年 北星学園大学経済学部教授
現在に至る

憲法を使いこなすための知識とスキルが大切。

憲法は難しくわからない。だから、憲法の先生って想像もつかない。そんな声をよく耳にします。私自身はいたってフツーの人間だと思っているのですが、それでも、難しくてもどうしても必要で大切なことならば、人は知ろうと努力するはず。携帯電話の説明書は、憲法以上に難解だと思うのですが、必要に迫られれば、読んで理解しようと頑張ります。でも、憲法はそうではない。それは、私たちの日常生活にとって、憲法が身近な存在ではないからなのでしょう。

憲法には、私たちの生活にとって当たり前のことが書かれています。そのため、普段はその大切さに気づかないだけです。たとえば、ある日突然、警察が家にやって来て、理由も言わず市民を連れ去ることなど、今の日本では考えられません。そんなことは憲法が許さないからです。しかし、その当たり前が崩れたとき、憲法の問題は私たちにとって切実なものになります。東日本大震災で被災した人たちは、いま、生命、健康、自由、財産、プライバシー、良好な環境といった、人間の基本的条件が根こそぎ奪われた状況におかれています。被災した人々には、これらの状況の改善を求める権利があるし、他の国民には、その権利の実現に応える義務があります。そして憲法には、権利を保障する政治の役割と手続が定められています。私たちは、いざという時のためにも、日頃から「憲法の眼」を通して日本の社会と政治を点検し、憲法を使いこなすための知識とスキルを研いでおく必要があります。

語り合いましょう、憲法と人権のこと。

大学に入学した当初、私は法曹を目指していたのですが、すぐに挫折して憲法を研究する道に進みました。しかし今では、学生や市民の皆さんと憲法や人権について語り合うことが、天職のように思えます。学習会や講演会の声がかかれれば北海道のどこにでも行くつもりです。呼んでください(笑)。

北星の学生は真面目でポテンシャルも高いのですが、時代のせい、政治への関心がやや薄いと感ずることもあります。しかし、学生もまた主権者として、自分たちが生きていく国の未来を自分の手で切り拓いていかなければなりません。憲法は、そのための道標です。これからも、一人ひとりが等しく将来に夢を持てる社会にするにはどうしたらよいかについて、学生をはじめ多くの人たちと考え、語り合いたいと思っています。そして、その後にちょっとだけお酒に付き合ってもらえれば、こんな幸せなことはありません(笑)。

《岩本先生の主な著書》

- 『北海道と憲法』
(法律文化社・2000年／共著)
- 『はじめての憲法学』
(三省堂・2004年／共著)
- 『日本国憲法解釈の再検討』
(有斐閣・2004年／共著)
- 『絵で見てわかる 人権』
(八千代出版・2011年／単著)



趣味でチェロを弾きこなすほか、自著のイラスト原画を描くなど多才な岩本先生。

OB & OG Interview

卒業生は、いま。



NHK Eテレ「高校講座・地理」の公開収録にて。スタジオでもにぎやかに盛り上げるのが彼女ならではの持ち味。

“商店街アイドル”をめざして奮闘中!

NHK Eテレ(教育テレビ)「高校講座・地理」のアシスタントとして活躍中のタレント・今野美里さん。大学在学中から芸能界をめざし、昨春卒業後に本格的な芸能活動をスタートさせました。持ち前の明るさと行動力で夢に向かって歩み続ける今野さんにお話を伺いました。

タレント

このみさと

今野 美里さん(愛称:ミータス)

2010年3月

北星学園大学 文学部 心理・応用コミュニケーション学科卒業

【おもな出演番組】

NHK Eテレ(教育テレビ)「高校講座・地理」(毎週金曜日14:00~14:20)

インターネットテレビ「四葉のクローバー」(毎週金曜日21:00~21:55)



留学を機に芸能界入りを決意。

面白そうと思ったらすぐに行動を起こすタイプです。高校時代から北海道日本ハムファイターズの「ファイターズガール」やウェザーニュースのお天気キャスターなど、いろいろな経験をさせていただきました。芸能界にも興味はあったものの、将来への不安などもあり、卒業後は一般企業に就職するつもりでした。ところが2年生の春休みにオーストラリア・シドニーへ短期留学したのが大きな転機になりました。こんなにも世界は広いのに、将来が不安だからと縮こまっている自分はなんてちっぽけなんだろうと実感。一度きりの人生を悔いなく生きようと決心し、帰国後すぐに芸能事務所をリサーチしてオーディションにチャレンジ。合格を機に上京し、タレント活動をスタートしました。大学在学中でしたから札幌と東京を往復して勉強も継続。ゼミの先生や友人、家族に支えられながら、無事に昨年卒業しました。

大学4年間の経験は大切な財産。

10代前半でデビューする芸能人も少なくない中、大学卒業後に本格的に芸能活動を始めた私はスタートが遅い方かもしれませんが、それを補ってあまりあるほど、大学の4年間は私にとって価値ある時間でした。心理・応用コミュニケーション学科は机上だけでなくフィールドでの学びを大切にす

小学生の林間学校のお手伝い、チアダンス部や観光研究会の活動、アルバイトや留学、仲間で夢を語りあう時間、卒業研究に没頭した日々……東京と札幌を行き来しながらの多忙な毎日でしたが、どの経験もかけがえのない財産になりました。

自分の使命と思える仕事を極めたい。

現在は、NHK Eテレ「高校講座・地理」に出演中。取材で全国各地に出かけ、さまざまな人のお話を伺っています。地域それぞれの風土に根ざした文化、その土地で働く人々にふれるたび、大学で学んだ以上の“生きた暮らし”、人間一人ひとりに与えられた“使命”に感銘を受けることも少なくありません。私も自分の使命と思える仕事に出会い、一生続けていけたらいいなと思うようになりました。今まで好きなことを楽しくやってきたけれど、これからはひとつの特化した分野を極めて仕事に結びつけたいな、と。私は東京の昔ながらの商店街が好きなので、商店街のエキスパートとして魅力を発信するべく、最近では休日のたび商店街を歩き回って情報収集しています。目標は商店街アイドル!いつかお茶の間の顔として、北海道のみなさんにも親しまれる存在になれる日を夢みて頑張ります。



「ブログ」をテーマとした卒業研究で、自らのブログを一冊の本にまとめました。

スターリース
学生時代はチアダンス部(STARRY'S)に所属。明るいつまみはこの頃から変わりません。(写真一番左が今野さん)





TOPICS

北星キャンパスから音楽カルチャーを世界へ発信!

NHKの国際放送番組「J-MELO」収録・放送

「J-MELO」番組司会の歌手・May J.さんが来学!



NHKの国際放送番組「J-MELO」(世界180カ国・地域で放送中)の番組収録【8/1(月)放送分】が本学で行われ、放送されました。番組司会の歌手・May J.さんが来学し、本誌2~3ページにも登場した本学学生の堀井友梨香さんと山田悠理さん、音楽サークル「軽音楽部」【NMA(New Music Association)】のメンバーが共演。北海道の音楽シーンについて楽しいトークを繰り広げました。



リアルな北星ライフが見えてくる。

高校生のためのキャンパス情報誌

キャンパスライフ情報誌「star box」2011年度版発刊!

【紀伊國屋書店札幌本店】「くすみ書房」にて無料配布中!

本学では今夏も、大学・短大への進学を考えている高校生のためのキャンパスライフ情報誌「star box」2011年度版を発刊しました。「J-MELO」にも出演した堀井友梨香さんのインタビューなど、リアルな北星ライフがこの一冊に詰まっています。ぜひご覧ください。

●お問合せ先/北星学園大学 企画広報課 Tel.011-891-2731(代表)



「star box」を手に持つ本学卒業生の今野美里さん(タレント)

OPEN CLASSES

英語から見えてくる、日本とアメリカの“いま”。

第37回 北星学園大学公開講座

グローバル時代における英語の役割 —ことば・教育・民族・文学・マスメディアの視点から—

本公開講座では、グローバル時代の英語が果たす社会的役割について様々な学問的観点から検証を行います。グローバル時代における英語メディア報道の視点から見た日本の姿、アメリカ移民社会が直面する言語問題、アメリカ移民文学の開花とその社会的意義、アメリカ英語の多様性と民族のアイデンティティの問題、さらには、グローバル時代がもたらす英語の多様化という現実を反映した今日の学校英語教育の在り方など様々なテーマを扱います。



※写真は昨年行われた公開講座の様子です。

- 講 師 / 本学文学部英文学科専任教員 (江口均、高野照司、岡村輝人、伊藤 章、河原歳也) 大阪大学大学院言語文化研究科教授 日野 信行 氏
 - 日 程 / 9月30日(金)~11月4日(金)18:20~19:50(全6回・毎週金曜日)
 - 会 場 / 北星学園大学内教室
 - 定 員 / 200名(定員になり次第締め切ります)
 - 受 講 料 / 一般2,000円(全期間セットの受講料となっております)
 - 申込締切 / 9月5日(月)必着(申込書および受講料入金)
- 本学のホームページでご案内中です。

OPEN UNIVERSITY

新たな世界が広がる、社会に開かれた生涯学習講座。

北星オープンユニバーシティ

語学や資格取得の生涯学習を通じ、 人材育成、交流の場を提供

社会人、卒業生に在生学生も交えた生涯学習の機会として多彩な講座を開講しています。後期は10月15日(土)より、新規講座を含め約45講座の開講を予定していますので、皆さんの受講をお待ちしています。

- 申込期間 / 9月2日(金)~9月21日(水)
- 募集講座 / 「語学」「資格取得対策」「文化教養」「ビジネス・社会連携」など
- 申込方法 / 募集講座の詳細は8月下旬にホームページでご案内しますので、インターネットでお申し込みください。

北星オープンユニバーシティ

検索

<http://www.open.hokusei.ac.jp>

ホームページでご確認いただけない場合は、案内書をお電話でご請求ください。無料で送付いたします。



※写真は今年行われた語学講座の様子です。

大学公開講座、オープンユニバーシティ
お申込み・お問合せ先

北星学園大学 エクステンションセンター(C館1階) Tel.011-891-2731(代表) Fax.011-896-8311(直通)

